

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 久保 公利

	主査	教授	平野	聡
審査担当者	副査	教授	坂本	直哉
	副査	教授	武富	紹信
	副査	准教授	本間	明宏

学位論文題名

閉塞性黄疸患者における胆道ドレナージ術前後の肝弾性度測定
(Liver Elasticity Measurement Before and After Biliary Drainage in Patients
With Obstructive Jaundice—A Prospective Cohort Study)

申請者は、閉塞性黄疸患者に対して、超音波エラストグラフィであるTEとVTQを用いて、胆道ドレナージ術前後での肝弾性度と血清肝線維化マーカーの変化を比較検討し、それらの相関を明らかにすることを目的に、単施設前向き観察試験を施行した。その結果、閉塞性黄疸に伴って肝弾性度は上昇し減黄により減少すること、肝弾性度と血清肝線維化マーカー (P-III-P、HA) の間には有意な相関があることが明らかとなった。

学位論文発表後、審査にあたり、まず副査の本間明宏 准教授より、肝生検や血清肝線維化マーカーに加えて肝弾性度測定を行う意義、肝弾性度の早期減黄効果判定への応用、TEとVTQの有用性の差異についての質問があった。副査の武富紹信 教授より、TEとVTQの測定原理の違い、実臨床におけるVTQの応用と今後の課題についての質問があった。副査の坂本直哉 教授より、減黄後に肝弾性度が正常化していない理由についての質問があった。主査の平野 聡 教授より、減黄後に肝線維化マーカーが正常化していない理由、肝門部胆管癌片葉ドレナージ症例と胆道ドレナージの方法によるバイアスについての質問があった。

申請者は、いずれの質問に対しても自身の研究結果や知見、関連論文などを引用して、それぞれ適切に回答した。

この論文は、単施設前向き観察試験によってTEとVTQによって測定された肝弾性度が胆道ドレナージ術後に血清肝線維化マーカー (P-III-P、HA) とともに有意に減少し、T-Bil、P-III-P、HAと相関することを初めて示した点で高く評価され、今後、肝門部胆管癌術前検査への応用といった実臨床における肝弾性度の新たな位置づけや意義が明らかになることが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。